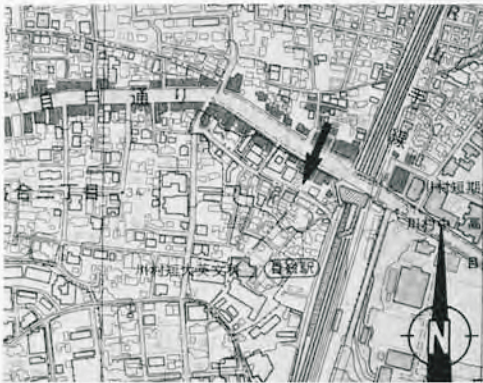


# かたりべ 30

豊島区立郷土資料館だより



↑ 国土地理院発行 一万分一地形図「池袋」より  
(矢印の方向が右写真の撮影方向)



建物のすき間を区境が通る。左側が豊島区目  
白3-4、右側が新宿区下落合3-1。  
かつては、高田町と落合村の境であった。

## 区境が見えた！

この写真は、郷土資料館が三月七日・二四日・二一日・二八日の毎日曜日開催した地域史講座「区境を歩く」高田・雑司が谷編のフィールドワークでのひとコマです。

目に見えないけれど確かに存在する区境の意味とその変遷を調べることで、豊島区とその周辺地域の歴史を違った角度から見つめなおしてみよう、というのが当講座のねらいでした。今回は「前編」として、高田・雑司が谷地区と駒込・巣鴨地区を探索しました。

オリエンテーションでは、清水靖夫先生を講師に迎え、参加者二〇数名の皆さんとともに安政六（一八五九）年版分間江戸大絵図、明治二一（一八八八）年版東京五千分一図、明治三〇年修正迅速測図、明治四二年測量一万分一地形図などから郡境・村境の変遷をたどり、現在の一万分一地形図の区境と比較を試みてみました。

しかし、区境の謎はますます深まるばかり…。そこでいざ探検、と相成りました。

現在では住宅や学校、ビル、山手線などにはばまれて、昭和七（一九三二）年に制定された区境の跡を辿ることは難しくなっていますが、その反面、区境はかつての豊島区域の地形や旧道、そして護岸工事以前の神田川の流路を私たちに認識させてくれました。皆さんも区境を歩いて豊島区の歴史を再発見してみませんか。（石川）

# 特集 新館設立に向けてV “収蔵庫探検隊が行く” 第3回

前回（かたりべ29号）の葛飾区郷土と天文の

博物館訪問後、日常業務の忙しさに紛れて、課

せられた任務である収蔵庫探検を怠っていた我

々探検隊（写真下）ですが、四月の年度がわり

とともに活動を再開し

ました。東京都の東部

地域葛飾から一気に西

部地域杉並へ。探検

隊は飛び回ります。

“収蔵庫探検隊が行く”の三回目は、杉並区

立郷土博物館（所在地・杉並区大宮一―二〇―

八 京王井の頭線永福町駅下車徒歩一五分）を

取り上げました。年度がかわって間もない四月

九日にお邪魔した我々を、四月二十七日からの特

別展に向けて

お忙しいなか、

熱心にご案内

いただいたの

は武士田学芸

員（写真下）

です。



「愛情のこもったたよりを待っています。」と武士田学芸員



相変わらずウダツのあがらない収蔵庫探検隊

## 杉並区立郷土博物館収蔵庫訪問記

東京都杉並区立郷土博物館は、一九八九（平成元）年五月に開館した歴史系の地域博物館で

す。

館内一階の常設展示室は、「武蔵野台地と水

と人のくらし」（原始・古代）、「武蔵野の村と

古道」（中世）、「江戸と杉並」（近世）、「荻

窪風土記」（近現代）のテーマのもとに通史的

に構成されています。二階の情報普及コーナー

では、多くの映像メニューのなかから自由に選

択できるビデオ機器が設置されており、ついつ

い長時間にわたって映像に引き込まれてしま

います。

また、敷地内には、江戸時代後期に建てられ

た農家の母屋と長屋門（いずれも杉並区指定文

化財）が移築・復元されており、急激に失われ

ていった当該地域における農村文化や農村生活

の一端を考える上で、貴重な資料となってい

ます。そのほか、一年間に数回の企画展示や、区

民向けの講座・教室が開催されるなど、多くの

事業を展開されています。

さて、同館には一般収蔵庫と特別収蔵庫の二

種類の収蔵庫があり、以前取材した新宿区・葛

飾区の場合と同様、収蔵資料の種類や性格によ

って使い分けがなされています。以下、一般収

蔵庫↓特別収蔵庫の順に探検していくことにし

ましょう。

収蔵庫名	面積（単位㎡）	空調設備・設定温湿度
一般収蔵庫 （地下1階）	128.32 積層部分含まず	24時間空調 20℃ 60%
特別収蔵庫 （地上1階）	38.35	24時間空調 20℃ 60%
合計	166.67 一般収蔵庫の積層 部分は含まず	



### 一般収蔵庫を拝見

地下一階に設けられたこの収蔵庫には、民俗資料を中心に、考古資料（板碑を含む）、昆虫標本などが納められています。博物館が川に近く、しかも収蔵庫が地下にあるということ、湿度の問題を考慮して二重壁の構造をとり、庫内壁面および天井はすべて杉板張りとなっています。開館後四年が経過していますが、温度・湿度とも安定しているという事です。資料は重量ラックに整然と、しかもピシリと収納されています。この収蔵庫に納めきれない資料は、区内の公立施設の倉庫や民間の倉庫で保管されているとのことです（後述）。

なお、杉並区

の計画に学校の余裕教室の地域利用が掲げられており、考古資料・民俗資料の余裕教室への収納が、その一環として今年度計画のなかに組み込まれているとのことでした。



一般収蔵庫（入口付近より）



一般収蔵庫（積層部分）

### 特別収蔵庫を拝見

一般収蔵庫と同様に、庫内壁面および天井が絵杉板張りとなっているこの収蔵庫には、おもに歴史資料と文学資料が収納されています。また、特別展・企画展開催等のために外部から借用してきた資料の一時保管庫の役割も果たしています。収納棚は杉材で組まれ、紙資料にとってなるべくやさしい環境になるようにとの配慮が窺われます。

杉並区の場合、区内の諸家文書は各所蔵者宅で管理している場合が多いらしく（後述）、庫内は比較的余裕がありました。



特別収蔵庫（入口付近より）



特別収蔵庫（前室より内部をのぞむ）



**1** 博物館で収蔵している全資料のうち五分の二程度しか一般収蔵庫に納まらず、他の資料は外部の倉庫で保管している状況である。現状の3倍の面積は欲しいし、また資料を良い環境のなかで保存していくためにも必要なのではないが。

**2** 一般収蔵庫の扉は、その構造上人の出入りだけの場合でも両側の扉を開けなければならぬ。おまけに、収蔵庫の内側から鍵の開け締めができない。

**3** 一般収蔵庫の天井の一部分が、空調用エアダクトのため下に張り出しているので、2階部分の天井高が低く、資料の出入れに支障がある。これは設計図面の段階で読み取ることができなかった(2についても同様)。

**4** 資料の収蔵システムは、受入れ↓整理(燻蒸)↓収納という段階を経るが、現状では整理スペースが狭く作業効率が非常に悪い。一度に大量の民俗資料を受け入れたとしても、集中的に整理作業が行なえる中間庫的なスペースが、収蔵庫とは別に必要なのではないか。

### 取材を終えて

杉並区立郷土博物館の展示面積二九七・二五㎡(うち特別展示室一〇三・五〇㎡)に対して収蔵庫面積は一六六・六七㎡(ただし、この数字に一般収蔵庫積層部分は含まれていない)であり、展示室優先の博物館が最近多いなかで、比較的収蔵庫面積の割合が多い博物館に属するといえましよう。しかし、先に「収蔵庫の問題点」の部分で述べたように、すべての収蔵資料の博物館内の収蔵庫に納めることはできず、博物館の外部に収蔵スペースを確保することは、もはや「当たり前」になっているようです。

さて、取材の前我々は、「前近代の杉並区域は大部分が農村地域であったため、区内の村方文書は相当数にのぼるだろう。」と信じていました。しかし、それらが納められている特別収蔵庫内には、かなりの余裕がありました。その理由について武士田学芸員に尋ねたところ、「自分の家で文書を管理したいという史料所蔵者が多いため、そのような場合には所蔵者の意向を尊重して、博物館側からは積極的に文書を寄贈・寄託依頼を行うようなことはしない。」ということでした。

資料の散逸を恐れるあまり、寄贈・寄託を一方的に要求し、所蔵者との折り合いが悪くなっ

てしまった、という博物館関係者の話を聞くことがあります。杉並区の資料収集のあり方は、保存・管理面において問題がないとはいえませんが、所蔵者に資料保存の重要性を伝え、文化財保存に対する理解者層を拡げていく意味で参考になると思われます。博物館側が所蔵者と頻繁に連絡を取り合い、資料の間覧(見学)希望がある場合には、その仲介の役割を果たしているような体制づくりも必要なことと思われるます。ちなみに、杉並では諸家文書のマイクロフィルム化が今年度予算計上されているそうです。博物館が抱えている「資料」のイメージ(その土地の生活様式が知られるもの)と、一般人々が考えている「資料」のイメージ(書画、骨董品等)とはかなりのギャップがあり、「そんなものならば、うちにもあったのに……(この前捨ててしまった)」というところで、資料を失ってしまった苦い経験は、地域博物館で働く学芸員の多くが味わっています。そのギャップを少しでも埋めていく立場にある我々にとって、今回訪れた杉並区立郷土資料館でのお話はいへん参考になりました。

今回は、いよいよ「豊島区立郷土資料館の探検記」です。意外な事実が発見できるかも知れません。ご期待下さい。

(秋山)

## 特別展「女性の祈り―婚姻・出産・育児の信仰と習俗―」をふりかえって

去る二月五日から三月二一日までの会期で開催された特別展「女性の祈り」では、婚姻・出産・育児に関わる信仰や習俗が、現代の都市化による生活環境の変化や社会構造の変動によって、どのような変容をとげてきたのかについて、豊島区地域を中心に取り上げて考えてみました。

郷土資料館にとって「富士講と富士詣」展の開催以来、八年ぶりの民俗関係の特別展でしたが、会期中二四七三名（内訳は男一〇三九・女七五二・子供六一六名）の入場者を数え、また二月二一日と三月二三日に開催された鬼子母神信仰と子育ての習俗をテーマとした講演会も好評でした。今回の特別展に御協力いただきました区民の皆様をはじめ関係各位・機関に改めて御礼申し上げます。

今回の特別展の成果と今後の課題については『年報』第八号で詳述したいと思えますので、ここでは来館者のアンケート（二九九名）の一部をご紹介します。



アンケートを見ますと、初めて来館された方が意外に多いのに驚きました。女性の祈りというテーマに興味をもった方や民俗に関心の強い方が来館され、また子育て地蔵を展示したこともあって、いつもの特別展とはひとあじ違う会場の雰囲気がありました。（石川）

★婚姻形態が変わりつつある今、このような企画は大変興味深いものがあります。あと二〇一三〇年もすれば再構成しづらくなるような品々を多く見ることができて幸いでした。区内にこれだけ多くの安産・子育ての信仰の対象があるとは思いませんでした。これからは現場へ行く途中訪ねてみようと思います。（二四歳男性）

★豊島区の庶民資料の調査収集の成果の一つかと思えます。子育て地蔵や鬼子母神など小・中学校の社会科授業で採り上げられるように解説編集し、教育現場で使ってもらえたらと思います。地域社会の歴史や遺跡に大人も子供もあまり関心を持たない現状を憂えます。（六二歳男性）

★地蔵信仰など今でも地域に息づいている信仰を女性と子供を中心としたテーマでまとめた展示はとても身近に感じられ、昭和初期の戦争直

後等の状況を垣間みる生の資料も多かったのととても見ごたえがありました。（三九歳女性）

★お地蔵さまはすこく大きいんだなあ。いつまでもお守りください。（八歳女兒）

★自分の年令からみてまだ記憶に残っている話なので、面白かった。庶民の生活より一つ上の階層の話。今度はもっと一般庶民の話がほしい。（六四歳女性）

★育児に関して社会の中でどう育てられたかということには興味があります。今回でも七五三等の特別な日に近所中で祝われたという展示がありました。近所づきあい希薄になる一方の昨今、「子供と社会」というようなテーマでも掘り下げていただけませんか。（四六歳男性）

★現代の問題に通じるよいテーマ設定だったと思います。今日の地域の子育の動きも一部紹介できるとよかったです。講や地蔵に参ることはなくなっても、様々な母親グループ、子育てを考えようとする市民グループの動きはあり、今地域社会の中でどんな役割を担っているのか？過去の状況との対比は興味深いと思うのです。（三三歳男性）

★地域資料を発掘し、「現代」との関わりを常に追求するその姿勢は、他館の追随を許さぬものと評価しています。今後とも期待しております。（三三歳男性）



# 一九九三年度 豊島区立郷土資料館事業予定

郷土資料館では、今年度次のような事業を計画しています。みなさまに親しんでいただける資料館にしていくため、各事業についてのご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

## 特別展

◎(仮称) 植木屋のある風景

——庭園都市江戸の周縁部をさぐる——

会期 8月6日～10月3日

・会期中に特別展記念講演会を三回程度開催する予定です。

◎(仮称) 都市の娯楽

会期 2月8日～3月20日

・会期中に特別展記念講演会、シンポジウムを開催する予定です。

## 博物館講座

◎博物館でなんだ?

日程 10月上旬から下旬(全四回)

## 地域史講座

◎区境をあるく(フィールドワーク)

日程 5月9日～30日(毎週日曜日 全四回)

◎江戸時代の古文書を読むⅢ

日程 11月初旬～12月中旬(全六回)

## 歴史講座

◎戦争体験継承講座

日程 8月上旬から下旬まで(全三回)

◎(仮称) 中世豊島地域とその時代

日程 2月上旬～下旬(全四回)

博物館実習(一般の方は参加できません)

日程 9月24日～10月7日

## 刊行物

◎調査報告書第10集『集団学童疎開資料集(5)』

◎豊島区地域地図第6集『千川上水路図』

◎郷土資料館収蔵資料目録第7集

◎郷土資料館研究紀要『生活と文化』第8号

◎郷土資料館年報第8号(一九九二年度)

◎郷土資料館だより『かたりべ』30～33号

## 整理・保存

◎資料館収蔵庫の燻蒸(7月5日～12日)

◎旧宣教師館収蔵庫の燻蒸(8月16日～18日)

◎榎本家・菅野家・三輪家文書の整理(通年)

◎寄贈・寄託資料、受入れ図書書の整理(随時)

郷土資料館事業の詳しい日程などにつきましては、「広報としま」や「かたりべ」に随時掲載いたしますのでご参照願います。

## 郷土資料館なんでもQ&A

**Q** 豊島区は起伏のある地域ですが、川が流れていないのはなぜですか。

**A** 現在豊島区で見られる川の流れは、新宿区との区境を流れる神田川だけです。しかし、かつては谷端川・弦巻川・水窪川・谷戸川などの自然の川のほか、千川上水という人工の川が流れていました。これらの川は、現在そのほとんどが暗渠となり、その上を人や車が走りまわっています。そのなかでも谷端川は、農業用水などとして流域の人々の生活と密接に結びついていました。しかし、都市化の進行とともに、生活排水などが流れ込み、川本来の姿をどんどんなくなっていきました。

汚水が流れるようになった川は暗渠化され、地上から姿を消して行きました。そして、道路や公園としてその名残をとどめています。

また、千川上水は江戸時代に引かれた人工の川で、その役目は江戸の町への給水、流域の農業用水、流末の産業用水と変化していき、戦後次第に暗渠化が進んでいきました。産業用水としての任務を終えた後、一時は通水が停止されましたが、地域住民の清流復活運動もあり、流れが復活し、上流部は水流を見ることが出来ますが、豊島区の部分は暗渠のままです。(伊藤)

## 連載 一点の資料から

### 《その5》

## 墓碑に豊島氏の歴史を読む

雑司谷鬼子母神の近くにある法明寺の墓地内に、豊島氏の墓(写真参照)があります。豊島氏は、鎌倉時代以来豊島区周辺に大きな勢力を持つていた武士ですが、一四七八(文明一〇)年に当主泰経は太田道灌によって滅ぼされました。しかし、一族はその後各地で生き続けました。この墓も、江戸時代にまで続いた豊島氏の墓です。墓の銘には、

豊島家歴代墓 白井

(1672)

寛文十二壬子年

妙経

高雲院宗円居士

七月二十三日

勝久

とあります。墓石の左上に戒名の追刻がありますが、これは明治になって墓地を整理した時に刻まれたものとみられます。

この墓に葬られる人物は、墓碑銘から白井勝久であることがわかります。白井勝久は、「泰盈本豊島系図」によると、道灌に滅ぼされた泰経の四代後の子孫にあたり、母方の姓の白井をなりました。「寛政重修諸家譜」によると、勝久は一六三二(寛永九)年に將軍家光に仕えました。最初は百俵どりでしたが、最後は下野

国小山に二百石を持つてになりました。將軍

家綱が二の丸渡御の時には、水練の技を披露して時服(朝廷や將軍から賜る衣服)を賜りました。そして、勝久の子の久俊や孫の勝昌も將軍

家に仕えました。勝昌には妹がいましたが、この女性が大奥に上がり、將軍家継の母の月光院

に仕える大年寄となって江島と名乗りました。この江島が有名な江島・生島事件の主人公です。

一七一四(正徳四)年の二月二日に、江島は同じく年寄の宮路と連れ立って、寛永寺・増上寺に月光院の代参にいき、帰りに木挽町の山村

座に立ち寄って、遊興して帰りま

す。ところが、その後これが発覚してしまいます。そして、江島は

親類預りになり、後に遠島の判決が下ります。結局月光院の取り成

して、信濃高遠に配流され、二十

七年後に六十一才で淋しく死にま

す。江島の恋人とされた生島新五

郎も遠島となり、山村座はとりつ

ぶしとなって、関係者千人余りが

処罰されました。江島の兄勝昌は

死刑になり、子の伊織・平七郎兄

弟も流刑になるところでしたが助けられ、遠江国撰要寺に入ります。

この事件の結果、同年の三月には芝居座元に

対して申渡しがされ、役者が舞台以外に茶屋な

どへ出ることや、棧敷にすだれをかける事など

が禁止されました。江島・生島は、「正徳の治

」における幕府の贅沢禁止政策の犠牲になったも

のとみられます。江戸の町民も彼等に同情した

らしく、「花の江島が白糸ならば たぐりよし

もの身が宿へ」という、生島が作ったとされる

小唄が流行しました。(小林)





# 豊島区立郷土資料館からのご案内

★刊行物発刊のお知らせ

## ◎郷土資料館調査報告書第九集

『豊島の集団学童疎開資料集(4)日記・書簡編Ⅳ

―高田第三国民学校・高田第五国民学校―』

戦争末期、空襲をのがれるため家族と離れて地方で生活した小学生の記録第四集目。今回は長野県平穂村(現・山ノ内町)に疎開した高田第三(現・高南小学校)、高田第五(現・目白小学校)両校の記録です。

〔内容〕Ⅰ「教室などは……さみしいです」(大野陽子あて書簡)、Ⅱ「初日の出からしっかりやろう」(渡辺岳夫日記)、Ⅲ「お国への御奉公と思って強く暮らしなさい」(佐藤静子家族往復書簡) さし絵や関連写真を多数掲載しています。〔九〇〇円〕

※学童疎開の記録として体験者の方が次の冊子を発刊されました。当館へもご寄贈いただきましたのでお知らせします。

①伊藤明『わたしの学童疎開体験記(子供たちの生活記録)』(著者は西巣鴨第一国民学校教員として長野県戸倉町へ疎開)

②旧長崎第五国民学校八期生『謝恩旅行記念文

集 相馬への旅』(疎開地への旅行を記念した文集。資料館で数部お預かりしていますので、入手ご希望の方はご来館の際事務室まで)

◎郷土資料館研究紀要『生活と文化 第七号』

郷土資料館の新館設立準備特集として、『座談会』豊島区立郷土資料館新館設立に向けて』を四〇ページにわたって収録しました。ほかに、稲葉継陽「鎌倉御家人毛呂氏の職能と領主制」、青木哲夫「集団学童疎開実施過程の二断面」、伊藤暢直「千川上水に関する若干の考察」の三本の研究論文を収録しました。〔一〇〇〇円〕

◎郷土資料館収蔵資料目録 第六集

『池袋地区歴史生活資料目録Ⅱ』

一九九〇年度に実施した池袋地区の歴史生活資料所存調査の際収集された生活資料三〇六点、および第五集に収録した文献資料の追加二点の目録を収録しました。巻末には生活資料のうち二〇数点の写真を載せました。〔九〇〇円〕

## ◎郷土資料館案内パンフレット

『豊島区立郷土資料館』(英語版・中国語版)

資料館では、外国人来館者のみなさまのために、英語・中国語の案内パンフレットを作成いたしました。ご来館の際ご利用下さい。〔無料〕

## 編集後記

木々の緑も次第に深さを増し、一年間のなかでもっとも過ごしやすいい季節になりました。

『かたりべ』三〇号をお届けします。今年度も「特集」新館設立に向けて」をはじめとして、ほかの連載記事も充実させていきたいと思えます。取り上げてもらいたい記事や、区内の歴史などについての素朴な疑問がありましたら、ぜひ「かたりべ編集部」までお寄せ下さい。

一九九二年度冬期特別展の終了にともない、収蔵展示室の展示替え(集団学童疎開と戦争関係資料中心)を行いました。七月下旬まで展示しておりますので、ぜひご覧下さい。

かたりべ

No.30

1993年4月30日

発行

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-3980-2351